

研究計画書

ゼミ名	石田ゼミ	チーム名	石田タイガース
タイトル	ESG 評価と「E(環境)」に焦点を当てた分析		
テーマ群	b) 財政・金融		
メンバー	増本高, 岸野草太, 山本匠真, 米田龍之介, 村上立起, 関戸尋人, 齋藤伶空, 徳重諒人		
研究計画内容	<p>「研究背景と目的」</p> <p>私たちは 2006 年国連の PRI(責任投資原則)以来注目が集まっている「ESG 投資」に着目した。ESG 投資は、環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)の 3 つの要素を考慮して投資を行うアプローチである。この概念は国連が提唱し、主要な経済活動において持続可能な発展を推進するために生まれた。ESG は投資家や機関にとって、将来のリスクを軽減し持続可能な長期的なリターンを確保する手段として重要である(小平 2021、本田・伊藤 2023)。しかし ESG が環境に配慮していると言っても企業の情報の開示性の低さからどれほど ESG に取り組んでいるのかわからないと言った問題点も存在している。そこで私たちは ESG 投資にはどれほどの有用性が見込めるのかを企業の実績として数字で比較的判断しやすい E(環境)に焦点を置いて調査する。</p> <p>「研究の内容」</p> <ol style="list-style-type: none"> 「日経平均気候変動 1.5°C 目標指数先物」という環境評価を重視する先物や、脱炭素について取り上げられた企業ランキング等、それらに該当する企業の特徴について分析を行う。 該当企業のレポート等から同一のデータや指標を収集し数値を比較、検証を行う。 環境評価と株価の関連性を調査し、環境評価が株価にどのような影響を与えるのか研究を行う。 その結果から、他の投資先やポートフォリオとの相違点や類似点を分析し、「ESG 投資」の妥当性を検証する。 <p>伊藤(2023)等の分析方法を参考とする。</p> <p>「期待される効果」</p> <p>環境に配慮した企業活動を行うことで株価が上昇するということが分かれば、投資家がリターンを追求する目的において GHG 排出量などの数値によって判断できることを示すことができる。また、データ開示に非協力的な企業は判断材料が少ないため、協力的な企業と比較して不利になると考えられる。そのため、企業による情報開示が積極的になり、ESG の取り組みに関しても積極的になることが期待できる。</p> <p>「先行研究・参考文献」</p> <p>小平龍四郎 『ESG はやわかり』日経 BP 日本経済新聞出版本部 2021 年</p> <p>本田桂子、伊藤隆敏 『ESG 投資の成り立ち、実践と未来』日経 BP 日本経済新聞出版 2023 年</p> <p>伊藤敬介 「カーボンニュートラルと株式投資」 『証券アナリストジャーナル』 第 61 巻第 1 号 2023 年 89~100 頁</p>		